



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 インテックス

パチカンの発表

教皇フランシスコは、ローマ時間 8 月 15 日(火)12 時、大阪教区と高松教区を合併し、新たに大阪・高松大司教区を設立、その初代大司教として前田万葉枢機卿を任命することを発表された。新しい教区の日本語の正式名称は、後日、大阪教区から発表される予定。

11 時 2 分

浦上で黙とうささげ、追悼と平和祈願のミサ

長崎原爆の日の 8 月 9 日(水)、18 時からの長崎大司教区主催平和祈願祭(平和祈願ミサ)とたいまつ行列)は、台風 6 号の接近に伴い中止となった。新型コロナウイルスの影響で教区主催としての平和祈願祭がここ数年見送られ、今年は 4 年ぶりに実施できるとしていただけに各方面から「たいまつ行列を取り止めることはあっても、ミサができないのは初めてでは」「残念だ」と中止を惜しむ声が聞かれた。

原爆犠牲者追悼と平和祈願の意向のミサ

平和祈願祭は中止となったが、原爆投下時刻 11 時 2 分に浦上小教区が毎年行っている

大司教区のジョン・ウエスター大司教とワシントン州シアトル大司教区のポール・エチエン大司教、広島教区の白濱満司教、高見三明名誉大司教、13 人の司祭団が共同司式をした。



ウエスター大司教の説教

説教ではウエスター大司教右の写真)が初めに日本語であいさつし「シアトル教区のポール・エチエン大司教とサンタフェ教区の司教である私は、今日ここに皆さんと一緒に集うことを光栄に思います。私たちは日本語を話せませんが、皆さんの心からのおもてなしと平和の君であるキリストに対する深い信頼についてはよく理解しています」と述べ、その後英語で語った。

ミサの終わりに司教団が祭壇前に立ち、中村大司教が 4 つの教区による声明「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」を発表し、核兵器のない世界の実現を目指して 4 つの教区が共に歩み始めることを参列者に伝えた(宣言の全文は教区 HP に掲載)。

最後に、教皇大使ボッカルディ大司教が参列者に向け言葉を送った(抜粋)。「パバ様は今日、原爆のすべての犠牲者のために祈りをささげてくださっています。1945 年 8 月 6 日と 9 日は人類にとつてとても悲しい 2 日間です。私たちは平和のために祈ることを求めています。亡くなった方々のために、いまだに苦しんでいる方々のために祈らなければなりません。美しい長崎の街は原爆によって一瞬のうちに砂漠と化しました。でも、その中から聖人が生まれることがあるのです。私は永井隆博士とみどりさんのことを考えます。この 2 人は世界中の人々に大切なメッセージを送っています。世界中のきょうだいの皆さん、再び戦争を企てることをやめてください。長崎が人類の歴史において最後の原爆の犠牲の場となりますように。同じことが繰り返されないことを願います」

ミサ後、韓国如己の会の巡礼団の 1 人で、同会が主催する読書感想文コンクールで表彰され長崎巡礼に参加した高校 2 年の男子生徒は「永井隆先生は原爆が落ちたその日から犠牲の心、人類愛をもつて人々に奉仕し、そのことにとっても感銘を受けました。学校の先生から永井先生に関する本を勧められたことで、こ(長崎)まで来ました」と話していた。また、ウクライナ正教会のポール・コロルーク司祭は「(ミサに参列し)今心の深いところにある感情を言葉で表すことがとても難しいです。現在、私たちの母国ウクライナが戦争の苦しみの中にありますが、長崎市民の人々を見ると、原爆に遭い大変な状況から復興したことが分かります。このことは大きな希望だと感じました」と語った。

また、佐世保では聖母被昇天の祭日 8 月 15 日(火)にアルカス SASEBO で聖母平和祈願祭が開催された。新型コロナウイルスの影響で 4 年ぶりの実施。参加者は平和のためのロザリオとゆるしの秘跡の時間をもった後、中村大司教主司式のミサで共に祈った。

力障連長崎全国大会

障害者から私たちの信仰のあるべき姿を探し求めて！⑪

日本カトリック障害者連絡協議会(力障連)
長崎全国大会実行委員会 事務局 片岡 英和

いよいよ力障連長崎全国大会の開催が来月となりました。全国大会実行委員会でも現在は担当部門ごとの動きを加速し、大会の成功へとまい進しております。ここまで準備が進められましたのは、教区内における神父様・信徒の皆様のご協力があったからこそのもので感じています。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて大会についてあらためて簡単に説明を申し上げますと、10 月 14 日(土)、15 日(日)の 2 日間にわたって長崎純心大学で行われます。基調講演には元熊本学園大学教授であり弁護士でもある東俊裕氏をお迎えし「インクルーシブ防災」についてお話を伺います。東氏については自身も車いすで生活され、国連での障害者権利条約特別委員会の政府代表団顧問の経験もあり、熊本地震の際には「被災地障害者センターくまもと」の事務局長も務めました。地球の温暖化による気候変動もあり近年ではいつどのような形で大きな災害が起こるか分からない時代になっています。大雨や台風には特に対策を行っています九州においても対応できないほどです。今後一つ一つの命を守るためどういうことに気を付けなければならないのか、「インクルーシブ」という観点から大変貴重なお話が伺えると思います。その後インクルーシブに基づいたテーマに沿って分科会が行われます。2 日目には全体会・感謝ミサを行い、次の開催地へ引き継ぎ、閉会という流れです。

ここで大会の意義をご説明します。まずは「インクルーシブ」ですが、現在少子高齢化が進んでおり地域の中に若者が少なくなっているのが現状です。そんな中、災害が起こったとするならばどうやって全員の命を守るのかということを考えていくことが、インクルーシブ、すべてを誰ひとり取り残さない、ということにつながっていきます。人の関係性が希薄となっていくこの現代において、改めてつながりについて考える機会になればと思います。

次に「障害者を知る」ということです。視覚、聴覚、知的障害など言葉では知っていてもそれがどういうものなのかはつきりと分かる人は少ないと思います。大会にはさまざまな障害を持った方が参加されます。実際に触れ合ってみることが、今後の障害者への寄り添いに必ず役立つものになると思います。



浦上教会での 8 月 9 日 11 時 2 分のミサ。祭壇脇には被爆マリア像と被爆十字架がある。

大司教のジョン・ウエスター大司教とワシントン州シアトル大司教区のポール・エチエン大司教、広島教区の白濱満司教、高見三明名誉大司教、13 人の司祭団が共同司式をした。

ミサの終わりに司教団が祭壇前に立ち、中村大司教が 4 つの教区による声明「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」を発表し、核兵器のない世界の実現を目指して 4 つの教区が共に歩み始めることを参列者に伝えた(宣言の全文は教区 HP に掲載)。

最後に、教皇大使ボッカルディ大司教が参列者に向け言葉を送った(抜粋)。「パバ様は今日、原爆のすべての犠牲者のために祈りをささげてくださっています。1945 年 8 月 6 日と 9 日は人類にとつてとても悲しい 2 日間です。私たちは平和のために祈ることを求めています。亡くなった方々のために、いまだに苦しんでいる方々のために祈らなければなりません。美しい長崎の街は原爆によって一瞬のうちに砂漠と化しました。でも、その中から聖人が生まれることがあるのです。私は永井隆博士とみどりさんのことを考えます。この 2 人は世界中の人々に大切なメッセージを送っています。世界中のきょうだいの皆さん、再び戦争を企てることをやめてください。長崎が人類の歴史において最後の原爆の犠牲の場となりますように。同じことが繰り返されないことを願います」

ミサ後、韓国如己の会の巡礼団の 1 人で、同会が主催する読書感想文コンクールで表彰され長崎巡礼に参加した高校 2 年の男子生徒は「永井隆先生は原爆が落ちたその日から犠牲の心、人類愛をもつて人々に奉仕し、そのことにとっても感銘を受けました。学校の先生から永井先生に関する本を勧められたことで、こ(長崎)まで来ました」と話していた。また、ウクライナ正教会のポール・コロルーク司祭は「(ミサに参列し)今心の深いところにある感情を言葉で表すことがとても難しいです。現在、私たちの母国ウクライナが戦争の苦しみの中にありますが、長崎市民の人々を見ると、原爆に遭い大変な状況から復興したことが分かります。このことは大きな希望だと感じました」と語った。

また、佐世保では聖母被昇天の祭日 8 月 15 日(火)にアルカス SASEBO で聖母平和祈願祭が開催された。新型コロナウイルスの影響で 4 年ぶりの実施。参加者は平和のためのロザリオとゆるしの秘跡の時間をもった後、中村大司教主司式のミサで共に祈った。

最後に、教皇大使ボッカルディ大司教が参列者に向け言葉を送った(抜粋)。「パバ様は今日、原爆のすべての犠牲者のために祈りをささげてくださっています。1945 年 8 月 6 日と 9 日は人類にとつてとても悲しい 2 日間です。私たちは平和のために祈ることを求めています。亡くなった方々のために、いまだに苦しんでいる方々のために祈らなければなりません。美しい長崎の街は原爆によって一瞬のうちに砂漠と化しました。でも、その中から聖人が生まれることがあるのです。私は永井隆博士とみどりさんのことを考えます。この 2 人は世界中の人々に大切なメッセージを送っています。世界中のきょうだいの皆さん、再び戦争を企てることをやめてください。長崎が人類の歴史において最後の原爆の犠牲の場となりますように。同じことが繰り返されないことを願います」

最後に、教皇大使ボッカルディ大司教が参列者に向け言葉を送った(抜粋)。「パバ様は今日、原爆のすべての犠牲者のために祈りをささげてくださっています。1945 年 8 月 6 日と 9 日は人類にとつてとても悲しい 2 日間です。私たちは平和のために祈ることを求めています。亡くなった方々のために、いまだに苦しんでいる方々のために祈らなければなりません。美しい長崎の街は原爆によって一瞬のうちに砂漠と化しました。でも、その中から聖人が生まれることがあるのです。私は永井隆博士とみどりさんのことを考えます。この 2 人は世界中の人々に大切なメッセージを送っています。世界中のきょうだいの皆さん、再び戦争を企てることをやめてください。長崎が人類の歴史において最後の原爆の犠牲の場となりますように。同じことが繰り返されないことを願います」



「今年の夏は暑か」と、毎年のように言っているような気がするが、今年は確かに暑かったらしい。暑いとアイスが売れる。それも猛暑だと、パニアアイスなど乳固形分の多いものよりも、その少ない氷菓系のアイスの売れ行きが好調になるそう。首にタオルを巻き、蝉の鳴き声を聞きながら、アイスを食べるのも、夏の楽しみの一つだ。▲そういえば、蝉はいつから鳴き始めたのだろうか。毎年、気づいたら鳴いている。意識していたら、今日が鳴き始め、と確かに言えるだろうが、いつも気づいたら鳴いている。鳴き始めたと思うものの、いや先週からもう鳴いていたのでは、という思いに駆られる。今年の蝉について鳴き始めましたっけ? ▲思えば、恵みも似たようなものかもしれない。「気づけばそこにあるもの」だ。たしかに、人との出会いとか、困っているときに助けられたとか、「恵まれた!」とその瞬間に思うものもあるが、「気づけばすでにそこにある恵み」のほうがあるかに多いのではなかろうか。▲気づけばそこにある恵み、それにいかん気づいていくか。その手だての一つは、「感謝」だと思う。逆だろう、恵みに気づくから感謝があるのだ、というかもしれない。確かにそうだ。しかし、感謝できるものを身の回りに探してみたい。恵みが浮かび上がってこないだろうか。「くっせんば」を超えていく糸口。(馬)

核兵器のない世界のため

アメリカ・日本の4教区がパートナーシップ宣言

この8月、アメリカ合衆国からニューメキシコ州サンタフェ大司教区のジョン・ウェスター大司教とワシントン州シアトル大司教区のポール・エチエン大司教をはじめとする計9人の巡礼団が来日した。一行は、平和への思いを一つにした日米の教区による具体的な成果を得るために広島と長崎を訪問し、8月7日に長崎入り。台風6号の接近に伴い日程の一部変更はあったが、長崎市長訪問、諸宗教の人々との交流と原爆殉難者慰霊祭、長崎市内の巡礼、浦上教会での9日11時2分の原爆犠牲者追悼ミサに共に参加するなどし、10日無事に離崎した。滞在中2回にわたるアメリカと日本の4つの教区(サンタフェ、シアトル、長崎、広島)との会議では、原爆投下から80年となる2025年8月までに「核兵器のない世界」の実現に向け進展があることを切望し、4教区が共に歩んでいく道筋を話し合った。最終的に「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」宣言をまとめ、8月9日夕刻、4教区5人の司教がこれに署名した。

「核兵器のない世界」の実現に向けて、アメリカと日本の4つの教区の司教たちが8月8日(火)と9日(水)、長崎大司教館で会議を行った。サンタフェ大司教からはウェスター大司教の他、社会正義と生命尊重担当アン・アベローネ氏、広報担当レスリー・M・ラディガン氏、Nuclear Watch New Mexico 事務局長ジョイ・コグラン氏とその妻カーレン・ペティット氏が、シアトル大司教からはエチエン大司教の他、核軍縮専門家デバックス・クリスティのメンバー、ジム・トーマス氏と

広報担当ヘレン・マクレナハン氏が出席。また、日米双方のすべての通訳をノースウェスタン大学教授の宮崎広和氏が務めた。

会議は今年5月に広島で開かれたG7サミットの首脳に宛てた当該4教区の共同書簡をもとにしたアメリカ側の草稿に、広島教区の白浜満司教の提案を加えたものを検討することになった。同席する中村倫明大司教、高見三明名譽大司教すべての司教たちをはじめアメリカの随員たちからも意見が出され、4つの教区



2回(8月8日と9日)に分けて行われた長崎大司教館での会議の様子。下段の写真＝左から高見大司教、中村大司教、白浜司教、ウェスター大司教、エチエン大司教。

がどのようにして「共に歩んでいく」ことができるか、冷静に熱心にその道筋を探る話し合いが続いた。話し合い後、さらに見直しと翻訳などの調整が諮られ、最終的に「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」宣言文がまとめられ、8月9日(水)夕刻、長崎大司教館チャペルで4教区5人の司教がこの宣言文に署名した。

4つの教区は今後、まずは教区内のすべての信者にこの宣言の内容を周知し、理解を深めてもらうために働きかけていく。

※全文は教区HPに掲載

核兵器のない世界のためのパートナーシップ

広島と長崎への原爆の投下から78年にあたり、私たちは、核兵器による被害を受けた地域にあるカトリック教会の4教区の司教として、「核兵器のない世界」の実現を目指して共に歩み始めることを宣言します。そして、被爆80年を迎える2025年8月までに、「核兵器のない世界」の実現に向けて具体的な進展があることを切望します。

核兵器の保有そのものが倫理に反するという教皇フランシスコの思いと教えに基づいて、世界の指導者たちに対して、2023年5月に広島で開かれたG

7サミットの首脳に求めたような核兵器廃絶に向けた具体的な取り組みを進めるよう、再び呼びかけます。(中略)

同時に、私たちは宗教者として、私たち自身も核兵器のない世界の実現を推進するために、リーダーシップを発揮する責任を認識し、新たなイニシアチブをとることに合意しました。具体的には、教皇フランシスコが2019年11月24日に広島で発信していたメッセージの「思い出し、共に歩み、守る」を精神として、私たちの4教区からはじめ、その他の教区、さらには宗教を超えたパートナーシップの構築を呼びかけたいと思います。

「思い出す」とは、悲痛に満ちた歴史から学び、現状を見つめ、平和の文化を築くことです。「ともに歩む」とは、一緒に祈り、支え合い、行動することです。

「守る」とは、特に核被害者を救済し、核兵器によって破壊された環境を回復し、共通の家である地球を保護することです。

すべての宗教団体の皆さまには、この精神に基づく具体的な活動の展開を呼びかけたいと思います。(中略)

平和への道は険しいものです。私たちだけの力で歩んでいくことは到底できません。この私たちのパートナーシップの歩みの上に、平和の王であり、私たちと共に歩んでくださる真のパートナーであるキリストに祝福を祈り求め、平和の母である聖マリアの取り次ぎを願います。

(サンタフェ大司教区ジョン・C・ウェスター大司教、シアトル大司教ポール・D・エチエン大司教、長崎大司教区ベトロ中村倫明大司教、広島司教区アレキシオ白浜満司教、長崎大司教区ヨセフ高見三明名譽大司教)

被爆78年2023年8月9日

8月1日～9日
9日間の祈り

核兵器のない世界の実現を願って、アメリカ合衆国のニューメキシコ州サンタフェ大司教区とワシントン州シアトル大司教区から平和巡礼団が8月に広島と長崎を訪問し、この巡礼団を支えるために、アメリカの2つの大司教区では8月1日から9日まで「核兵器のない世界の実現のためのノヴェナ(9日間の祈り)」が行われ、これを受け、日本カトリック正義と平和協議会は日本でも祈りをささげるよう広く呼びかけた(7月28日付)。長崎教区においてもそれぞれに祈りをささげた。

2020年
被爆75年から
5年間のチャレンジ。
<https://nuclear-free.net/>
核なき世界基金

長崎教会管区 7月20日付 大神学生の養成に ついでの報告

長崎教会管区(福岡・長崎・大分・鹿児島・那覇教区)司教団は、2023年7月20日付で「長崎教会管区における大神学生の養成についての報告」を以下の通り発表した。

長崎教会管区すべての信徒・修道者・司祭の皆さま

(前略)さて、このたびは、長崎教会管区における大神学生の司祭養成のことでのご報告を申し上げます。ばなりません。

ご存じのように、長崎教会管区には、管区立の二つの司祭養成機関があります。

一つは、哲学神学を学び司祭職を準備する大神学生としての養成の場合「福岡カトリック神学院」と、もう一つは、その神学校へ入る前(一般的には大学生時代)の養成課程である「福岡コレジオ」です。

実は、そのどちらの養成機関とも、基本的に共同生活での養成が求められる中で、神学生数の減少により、共同体としての養成が難しくなりました。

そこで、わたしたち長崎教会管区司教団は、まず「福岡カトリック神学院」について、長崎教会管区各教区の司祭団のご意見を伺い、管区司教団での話し合いの後、2023年度第1回臨時司教総会において審議(7月19日の会議にて)していただ

き、次のようになりましたことをご報告申し上げます。

福岡カトリック神学院について

1 現在の「福岡カトリック神学院」と「東京カトリック神学院」を統合し、名称を「日本カトリック神学院」と改称し、日本の教会はひとつになつて司祭を養成することにする。

2 そこで、「福岡カトリック神学院」の現神学生は、来年(2024年)4月から「日本カトリック神学院」での養成を受けることとなる。今後の大神学生(2025年以降の入学希望者)の養成も同じである。それゆえ、「福岡カトリック神学院」は、2023年度をもって閉校となる。

3 以上です。

なお、長崎教会管区立「福岡コレジオ」の今後についての課題も残っています。

将来の方向性としては、管区立としてではなく、各教区の養成方針に従い、それぞれの教区が主体となって養成を行うことを検討していますが、開始時期などにつきましては決定次第報告いたします。(後略)

2023年7月20日

長崎教会管区司教団
長崎教区大司教 ペトロ 中村倫明
福岡教区司教 ヨゼフ・アペイヤ
大分教区司教 スルピス 森山信三
鹿児島教区司教 フランシスコ・ザビエル 中野裕明
那覇教区司教 ウェイン・フランシス・バーント

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社
西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

長崎カトリックセンター前 長崎市上野町1-5
TEL 095-845-6175

医療法人 平田クリニック

院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・通所リハビリテーション

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ドミニコ 溝口悦雄
〒858-0926 佐世保市大湯町586
TEL (0956) 47-4380

注文家具の店 家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台

佳織木工所

《家庭祭壇ギャラリーOPEN パンフレットもごさいます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956 (23) 1867 代表 ヨハネ 濱口 知博

世界平和へ祈りを…

明治石材

長崎本店 長崎市城米町13-1
大村店 大村市赤佐古町287番地
HP <http://meijisekizai.shopinfo.jp>

業務内容

お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻

電話 (095)846-3598
電話 (0957)50-3008

マイホームの美容と健康に！
(有) 山川 塗装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事

代表取締役 ペトロ 山川 進

佐世保市原分町1715-5
TEL (0956) 49-3330 FAX (0956) 49-8729

『旅』の終わり 150 周年記念

高校生が演じる岩永マキ物語

浦上四番崩れによって浦上信徒らが全国 22 カ所に流配された出来事『旅』からの帰還 150 周年にあたり、長崎大司教区は 5 月に続き、7 月 23 日 (日) に記念行事を行った。今回は長崎県高等学校文化連盟演劇専門部の協力を得て、長崎県内 5 つの高校 (純心女子、長崎南山、海星、県立長崎北、創成館) の演劇部員約 50 人が「岩永マキ物語



く伝えられたかなと思います」(純心高校 1 年・堀脇乙乃さん) また、役人などを演じた南山高校 2 年の原田晋之介さんは、「僕たち学生が、歴史、しかも長崎にゆかりの深いキリスト教や殉教に関するものを演劇を通して皆さんに伝えることができるんだなと実感できました。劇の中で

ペトロ平山高明司教帰天

(大分教区名誉司教) 1924 年ソウル生まれ。57 年 3 月 19 日福岡教区で司祭叙階。福岡司教館勤務。58 年大名町教会助任。60 年パリ・カトリック大学大学院入学。62 年同大学院宗教学修士課程を修了し帰国、福岡司教館

に勤務。64 年小倉教会助任、67 年健康教会主任。69 年 11 月 15 日大分教区司教に任命、70 年 1 月 25 日司教叙階。日本カトリック司教協議会では、国内移動信徒委員会、要理教育委員会、信仰教育委員会、殉教者崇敬促進委員会、信徒使徒職委員会の各委員長を歴任。また、諸宗教部門担当司教、殉教者列福調査特別委員会副委員長などを務めた。

2000 年 6 月 12 日		大分教区長を引退。08 年ローマの日本のためのレデンプトリス・マール神学院院长。17 年帰国後、明野司祭の家へ。20 年に司教叙階 50 周年の節目を迎えた。	
葬儀ミサは 7 月 18 日午前 11 時からカテドラル大分教会で、森山信三司教の司式により行われた。			



物語は現代の場面から始まる。被爆者・澄子に被爆体験をインタビューする中で浦上キリシタンの「受難」について語られるところとなり、澄子が伝え聞いた話を再現する形で進んだ。信徒発見から浦上四番崩れ、『旅』から帰還した一人で日本の福祉事業の礎を築いたといわれる岩永マキ (1849~1920 年) が人々のために奔走し亡くなるまでが描かれ、終演後は高校生の熱演に大きな拍手が送られた。

出演者のうち、岩永マキ役を務めた 2 人は次のように語っていた。「今まで 5 校どころか他校と一緒に公演するということがありませんでした。その難しさも感じる形に進んだ。信徒発見から浦上四番崩れ、『旅』から帰還した一人で日本の福祉事業の礎を築いたといわれる岩永マキ (1849~1920 年) が人々のために奔走し亡くなるまでが描かれ、終演後は高校生の熱演に大きな拍手が送られた。

来場者からは「高校生の一生懸命さに感動しました。私もカトリックですが、歴史について知らないところがありました」「いい時期にこのようなテーマが取り上げられ、演じてもらえて良かったです」などの感想が聞かれた。また、岩永マキの遠縁にあたり、浦上出身で現在福岡在住という男性は「私の先祖も流されま

演劇で伝えられるものとは

長崎南山高校演劇部顧問 毎熊先生に聞く 高校生が書くことになった『旅』の書き手になった。読めば読むほど、岩永マキさんを語るにはキリシタンの歴史を語らないと表現できないと感じました。構想を練って 3 月から書き始めました。高校演劇に 25 年ほど携わり毎年 1 本は脚本を書いているので書くこと自体は慣れているのですが、今回の題材は非常に難しかったです。

『旅』の終わり 150 周年は、9 月 10 日 (日) に 14 時から十字架山でのミサで記念される。当日は会場スペースの都合上、参加が制限される。『旅』の終わり 150 周年は、9 月 10 日 (日) に 14 時から十字架山でのミサで記念される。当日は会場スペースの都合上、参加が制限される。

『旅』の終わり 150 周年は、9 月 10 日 (日) に 14 時から十字架山でのミサで記念される。当日は会場スペースの都合上、参加が制限される。

導いてくださった神に感謝して

大崎教会献堂 50 周年記念ミサ



7 月 2 日 (日) 午後 1 時半から、大崎教会献堂 50 周年の記念ミサと祝賀会を執り行いました。ミサは中村倫明大司教様司式のもと、出身や歴代聖職者、他 300 人ほどの信徒とともにささげられました。

出身司祭であるサレジオ修道会管区長の濱口秀昭神父様は、説教の中で大崎地区の信仰の歴史に触れ、「大崎で暮らした先輩一人ひとり、またそれぞれの家族一つ一つが信仰を生き、子どもたちのために生活をささげてきた。おかげで、今のわたしたちにつながり、信仰を生きている」と教会の歩みを分かち合われました。ミサの終わりに、中村大司教様は参列した若者や子どもたちに向けて長崎教区

全体に元気を広げていくよう呼びかけ、召命へと招いてくださいました。祝賀会では、大崎保育園の園児による太鼓の演奏、小学生の合唱が披露され、元気な子どもたちの姿が会場を大いに沸かせました。また、信徒から集めた写真による大崎教会の歩みの映像が流れると、懐かしさに感嘆の声が会場中にあふれました。

献堂 50 年という節目の時を迎え、今日に至るまで多くの方々にお力添えをいただいたことを感謝するとともに、何よりも恵みのうちにこれまでに導いてくださった神様に感謝いたします。

大崎教会主任司祭 川端 志範



大崎教会献堂 50 周年の記念ミサと祝賀会を執り行いました。ミサは中村倫明大司教様司式のもと、出身や歴代聖職者、他 300 人ほどの信徒とともにささげられました。

出身司祭であるサレジオ修道会管区長の濱口秀昭神父様は、説教の中で大崎地区の信仰の歴史に触れ、「大崎で暮らした先輩一人ひとり、またそれぞれの家族一つ一つが信仰を生き、子どもたちのために生活をささげてきた。おかげで、今のわたしたちにつながり、信仰を生きている」と教会の歩みを分かち合われました。ミサの終わりに、中村大司教様は参列した若者や子どもたちに向けて長崎教区

全体に元気を広げていくよう呼びかけ、召命へと招いてくださいました。祝賀会では、大崎保育園の園児による太鼓の演奏、小学生の合唱が披露され、元気な子どもたちの姿が会場を大いに沸かせました。また、信徒から集めた写真による大崎教会の歩みの映像が流れると、懐かしさに感嘆の声が会場中にあふれました。

献堂 50 年という節目の時を迎え、今日に至るまで多くの方々にお力添えをいただいたことを感謝するとともに、何よりも恵みのうちにこれまでに導いてくださった神様に感謝いたします。

大崎教会主任司祭 川端 志範

カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会主催 2023 年度 カトリック講座のご案内

2023 年度生涯養成委員会主催の講座、後期はカトリック講座「信仰生活の基礎知識～今さら聞けない教会のこと～」をテーマに計 10 回の講座を計画いたしました。典礼暦や祈り、葬儀など日常生活の身近な事が各回の講義テーマとなっています。

洗礼を希望されている方々の学びや、カトリック信者としての基礎的な部分をもう一度見直し、理解を深めることができる内容です。一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

生涯養成委員会 山添克明

◆ 場 所 カトリックセンター 2 階講堂

◆ 受講料 5,000 円 (全 10 回分) *聴講可能 (1 回 1,000 円)

◆ 申込先 カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会

Fax 095-841-7732 ☒ cnsy.kouza@gmail.com

※お問い合わせのみ電話で受け付けます。Tel 095-841-7731

申込期限 2023 年 9 月 29 日 (金) ※オンライン受講は随時受け付けます。

カトリックセンターで受講希望または初回の講座受講の場合は期限を厳守してください。

土曜日 午前 10 時 30 分～11 時 30 分 ★公開講座のみ午前 10 時～12 時です。

テーマ: 信仰生活の基礎知識～今さら聞けない教会のこと～ テキスト: なし

	月 日	講 師	内 容
第 1 回	10 月 7 日	谷脇誠一郎師	典礼暦と祈りの生活
第 2 回	10 月 21 日	龍甲屋賢治師	典礼における所作・マナー
第 3 回	11 月 4 日	キム・ボム師	黙想
第 4 回	11 月 18 日	岡 秋美 師	みことばと信仰生活
第 5 回	12 月 2 日	谷脇誠一郎師	信心業
第 6 回	12 月 16 日	山本一郎師	ゆるしの秘跡
第 7 回	1 月 6 日	川口昭人師	聖人崇敬と巡礼
第 8 回	1 月 20 日	中野健一郎師	祝福
第 9 回	2 月 3 日	山村憲一師	葬儀と埋葬
第 10 回	2 月 17 日	中村倫明大司教	【公開講座】★聖週間の典礼

第10回

召命フェスティバル

雲仙で4年ぶりに開催!

教区召命委員会(辻原達也委員長)主催の「召命フェスティバル」が7月25日(火)、雲仙メモリアルホールで開催された。コロナ禍で4年ぶりとなった節目の第10回大会には、各地区から小学生約120人が参加。多数の司祭たちの協力を得て、黙想会形式で行った。



はじめに中村倫明大司教様のビデオメッセージを見た後、東長崎教会が雲仙殉教祭で披露した『東吉物語』名もなき殉教者に捧ぐを觀賞しながらゆるしの秘跡を準備。平本義和師(教区典礼委員会委員長)の指導の下、共同回心式を行った。続いて召命祈願ミサがさげられ、説教ではナム・シジン師が力強く司祭修道者への召命を呼びかけた。



テーマは「わたしたち

教会の足跡をたどる

下五島地区 小中学生黙想会

下五島地区小中学生合同黙想会が7月24日(月)から26日(水)に福江教会で行われた。小学校低学年、高学年、中学生に分けての1日黙想会で延べ75人が集まった。

マスの教会堂のポスターを見ながら、ご当地の神父様から与えられたミッションを解く、というものだ。実際に現地には行けないものの、「プチ巡礼」としてさまざまな教会の歩みに触れることができた。

の「力作たち」はそれぞれの小教区に飾られ、子どもたちの黙想の実りを大人たちも楽しんだ。(下五島地区)



ドッジビー皆で楽しむ

長崎地区 子どもスポーツ大会

8月3日(木) シーハットおむらで長崎地区子どもスポーツ大会が開催された。新型コロナウイルスの影響で実に4年ぶりの開催。約230人の小学生、約20人の中学生がドッジビーを楽しんだ。

2023年度 第1回 臨時司教総会

7月18日(火)20日(木)に東京・日本カトリック会館で2023年度第1回臨時司教総会が行われ、司教16人とオブザーバーとして修道会・宣教会の代表ら4人が集まった。主な報告事項▼今年の「すべてのいのちを守るための月間」の取り組み▼「祖父母と高齢者のための世界祈願日」日程表の変更(昨年12月の臨時司教総会で「9月第3主日」と決めたが、「9月の「敬老の日」の前日」に変更)▼教皇庁宣教事業年次総会報告。

主な審議事項▼「諸聖人の連願」の口語訳公表▼記念日「日本205福者殉教者」の呼称を「福者セバスチャン木村と204殉教者」に変更▼日本カトリック司教協議会のローマ事務所閉鎖▼23年度教区分担金の負担額軽減▼「日本カトリック神学院」を再興(2面に関連記事)についての審議があった。

ぶどう園

▼『旅』の終わり150周年記念・十字架山殉教者祭 9月10日(日)14時、十字架山(長崎市辻町)。中町教会。

▼シノドス第16回通常総会・第1会期 10月4日(水)29日(日)、バチカン。

感謝

谷神父(三ツ山教会) TEL 095・847・7411 ▼聖トマス西と十五殉教者祭 9月24日(日)14時、中町教会。

お知らせ (新しいファックス番号) 城山教会のファックス番号が変更になりました。 FAX 095・808・0295

新刊良書

★かみさまいつもありがとう 文・絵・ベサン・ジェームズ・絵・クリスティーナ・カライ・ナギー、訳・堀口順子



★みでごらん! いちばんはじめのクリスマス 文・絵・ベサン・ジェームズ・絵・クリスティーナ・カライ・ナギー、訳・堀口順子



「みでごらん!」飼葉桶にあかちゃんのエースさまが眠っています。いちばん初めのクリスマスをお伝えする、子どものための小冊子。3歳から。A6判。ドン・ボスコ社、税別300円。

毎日の生活の中で、たくさんのお話を聞ける神さまに「ありがとう」を伝えます。祈りの心を育む、子どものための小冊子。3歳から。A6判。ドン・ボスコ社、税別300円。

＜保険の対象について＞ 本制度で対象となる現金・小切手類は次のとおりです。(ただし、家計用の現金・小切手類は除きます。) 現金(他人から預かった現金、および外国通貨を含みます)、小切手(作成前の小切手を除きます)、郵便切手、収入印紙、商品券、図書カード(図書券を含みます)、乗車券、入場券、クレジットカード売上伝票、金券およびクーポン券。*上記に列挙した以外のもの(手形、株券等の有価証券やプリペイドカード等)は含まれません。

「カトリック現金盗難補償制度」では、国内における「輸送中」および教会に「保管中」の現金・小切手類に盗難・滅失、その他偶然な事故が発生したことによって生じた損害を補償いたします。置忘れや紛失、「保管中」に生じた紛失や原因不明の数量不足等は補償の対象ではありません。現金・小切手類の価額を帳簿または書類に正確に記録いただくとともに、事故が発生した場合は、警察署・金融機関等へ届け出ください。詳しくはカリスにお問い合わせください。

私たちが、三條貴英 毛利玲子 山本泰彦 お守りします。 服部秀昭 川口 薫神父(顧問)

カリス通信 9月号 カトリック現金盗難補償制度のご紹介

「カトリック現金盗難補償制度」は、カトリック教会の皆様を、現金・小切手類の盗難リスク等からお守りします。「教会にカギが掛かっている時間に空き巣に入られた」「銀行に教会のお金を預けるために自転車走行中、現金が入ったカバンをひったくられた」など保管中・輸送中の事故に対して保険金をお支払いします。

＜カトリック現金盗難補償制度の特長＞ (1)お申込み手続きが簡単 輸送の都度、保険を手配する必要がありません。輸送・保管額が変動しても、支払限度額まで1年間補償します。 (2)支払限度額は保険金をお支払した後削減されません。 (3)財産上の直接損害に加えて費用の損害についても保険金をお支払します。

※本ご案内は「カトリック火災共済制度」の概要を紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をお読みください。

カトリック共済システム 有限会社カリス 〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館 連絡先 ☎0120-77-0033

カトリック共済システム 検索 23TC-002807 (2023年7月作成) リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

引受保険会社: 東京海上日動火災保険株式会社

主の平安 カトリック式葬祭・飾付一式 (有) 栄光式典社 代表取締役 ヨハネ 西村 勇二 長崎市辻町7-18 TEL (095) 844-4011 24時間営業 FAX (095) 843-9896

石 碑 文字彫刻 墓地工事 リフォーム 墓地分譲 なが さき せき ちょう 長崎石彫 ヨゼフ 岩永 貴弘 ☎(095) 862-2469 長崎市花園町 23-17 立岩公園前